

基本目標Ⅲ ワーク・ライフ・バランスの推進

重点課題1 ワーク・ライフ・バランスの啓発

施策の方向	具体的施策	施策対象者	担当課	平成24年度実施内容(数値、改善点、方向性)	平成25年度目標	H25機構改革による担当課
1、家庭生活における男女共同参画の促進	①男性の家庭への参画を促す啓発活動	男性市民	家庭教育支援室	家庭教育情報誌げんきっこfamily(年4回発行中2回)でイクメンパパを紹介した。	家庭教育情報誌げんきっこfamilyの編集等に携わる家庭教育支援チームヘスティアメンバーに啓発すると共に男性の家庭参画に関する記事のあり方について考える。	社会教育課
			中央公民館	取組みなし	検討する。	
			紀見地区公民館	『男の料理教室(20名)』を実施した。	『男の介護教室』を実施する。	
			紀見北地区公民館	『男の料理教室(16名)』を実施した。	継続実施する。	
			恋野地区公民館	子どもから高齢者まで参加、交流でき壮年期が中心となるキャンプファイアーを実施した。	地域の特色を生かし、幅広く広報し事業の発展に向けて継続実施していく。	
			学文路地区公民館	男性参加を促しながら、料理教室、ガーデニングなどを実施した。	防災などの取り組みと連携したり、乳幼児サークルや保育園と連携した男性参加事業を企画する。	
			隔田地区公民館	男性の参加を目的とした『みんなで一緒にミニミニ運動会』や、『親子夏まつり』を開催した。	家族が参加できるように内容を検討し、継続して実施する。	
			橋本地区公民館	サークル活動として『お父さんの料理教室』実施。日頃より家で家事をするなど、家庭を気遣う心意を養っている。	男性向けの事業を企画する。	
			西部地区公民館	健康を考える、興味をもってもらう内容の「グルメ倶楽部」を開催した。	幅広く広報し、継続実施する。	
			高野口地区公民館	サークル活動として『男の料理教室(20名)』を実施した。	子育てサークルと連携し男性の参加を呼びかける。	
				いきいき長寿課(地域包括支援センター)	男性が、介護に参加する機会が増えてきているため(息子が親の介護、夫が、自分の親や妻の親の介護等)介護保険の申請やその他相談に対応した。	
	②職場と家庭の性別役割分担の変革のための啓発	企業等 雇用主	商工観光課	・総合的なパンフレットを配布した。 ・セミナーの開催等の呼びかけを行った。	・経済団体等との一層の連携を図る。 ・広く実施されるために機会があれば国への要望をする。	
	③育児・介護休暇の男性への普及啓発	企業等 雇用主	商工観光課	・総合的なパンフレットを配布した。 ・セミナーの開催等の呼びかけを行った。	・経済団体等との一層の連携を図る。 ・育児・介護休業法の全面施行について市ホームページに掲載する。 ・近く休業補償が見直しされる方向にある状況を周知していく。	
		男性労働者 男性市職員	職員課	対象となった職員に対して、職員課担当から制度の説明を個別に実施した。	取得率が低い男性職員向けに、イントラネット等を利用することにより、制度の情報発信を行う。	
2、育児・介護休業法の事業者への周知と啓発の推進	①育児・介護休業法の事業者への周知	企業等 雇用主 労働者	商工観光課	・総合的なパンフレットを配布した。 ・セミナーの開催等の呼びかけを行った。	・経済団体等との一層の連携を図る。 ・育児・介護休業法の改正内容および全面施行について市ホームページに掲載する。	
	②時間外勤務、フレックスタイム、在宅勤務などの配慮について事業者への啓発	企業等 雇用主 労働者	商工観光課	・総合的なパンフレットを配布した。 ・セミナーの開催等の呼びかけを行った。	・経済団体等との一層の連携を図る。	

重点課題2 育児・介護サービスの充実

施策の方向	具体的施策	施策対象者	担当課	平成24年度実施内容(数値、改善点、方向性)	平成25年度目標	H25機構改革による担当課
1、育児・介護情報の提供	①情報の提供	市民	こども課	「橋本市子育てガイド 子育てのびのび」を市ホームページ掲載した。	継続実施する。	
			健康課	・毎年4月に広報と同時に健康カレンダーを各戸配布している。また、今年度から定期的に広報に「いのち」のテーマで健康について情報提供している。 ・FMIはしもとで、健診や教室についての情報を発信した。	ホームページの更新を定期的に行い、広報については年3回『健康』をテーマに掲載する。	
		子育て中の市民	いきいき長寿課(地域包括支援センター)	広報きらり、4月、7月、9月、10月、1月号において高齢者情報の発信を行った。介護予防教室等さまざまな機会において、情報の提供を行っている。	関連情報を再チェックし、ホームページの充実をはかる。	いきいき長寿課(地域包括支援センター)
		介護中の市民	福祉課	橋本・伊都障がい者相談支援センター及び伊都橋本障がい者就業・生活支援センターの事務所が保健福祉センターに移り、相談拠点を一カ所にする事により 市民サービス向上につながった。	事務職員の人員増加により幅広く広報し、円滑に相談事業をすすめる。	
2、子育て・親支援体制の充実	①保育園・こども園・幼稚園の受入れ体制や保育サービス(時間延長・0歳時保育等)の充実	市民	こども課	すみだこども園を開園し、0歳児保育等を充実させた。すみだこども園0歳児受入6名を含み、全保育園において10名の定員の増加を図った。	H27年度こども園整備に向けて取り組む。	
		子育て中の市民	学校教育課	全幼稚園における預かり保育を実施した(通常昼まで預かりであるが午後4時頃まで預かりを延長している)。	継続実施する。	
	②学童保育の内容の充実	市民	こども課	より子育てしやすい環境を整備するため、学童保育施設を2施設新築し、民設民営の学童保育所を1施設認可した。これにより市内の学童保育所数が2施設増加となった。(市内14施設)	実施方法を検討する。	
		子育て中の市民	こども課	・子育て支援拠点事業ひろば型としてこののほっとルームと高野口こども園、すみだこども園で事業を実施した。センター型としてあやの台保育園で事業を実施した。 ・NPO法人に委託しファミリーサポートセンター事業を実施した。利用実績1,127件。	新こども園新設に伴い、子育て支援センターの増設に向けて検討する。	
	③育児、子育て・親支援の充実 ・地域における施設を利用した親子教室、育児講座の機会提供	市民	家庭教育支援室	・思春期子育てイベントセミナー(年間5回) ・地域支援者養成講座(年間5回) ・家庭教育支援チーム委嘱事業(家庭教育情報誌げんきっfamilyの発行・講座・訪問等)を実施した。	開催時間を工夫しながら、継続実施する。	社会教育課
		子育て中の市民	健康課	・乳児交流教室<第1子のみ>市内各地区公民館で実施した。対象299人中参加は延べ595人 ・ツインパピィ<双子・三つ子を育てる親の交流会>事務局と相談しながら運営はしているが、具体的には講演会での支援20人 ・地域の親子サークルからの依頼で講師として派遣25回 ・ママパパ教室 17回延べ 妊婦86人、夫29人の参加・離乳食教室<前期> 6回保護者74人の参加 ・離乳食教室<後期> 6回保護者50人の参加 ・アトピー教室 2回保護者12人の参加 ・にこにこ歯磨き教室 12回保護者84人の参加 ・10か月児のフォロー教室 12回102人の参加	・積極的、継続的に啓発をする。(電話や手紙等での対応) ・教室に参加しやすいよう、年4回、ママパパ教室日曜日開催を実施する。 ・ツインパピィ<双子・三つ子を育てる親の交流会>に運営協力してくれる団体を募り、サークル開催時に毎回、母子保健推進員 ・ほっとシッター・家庭教育支援チームヘスティアの中から当番を決めて支援してもらう。	
	④子育て相談の充実	市民	健康課	・訪問活動 妊婦訪問1件、産婦訪問258件、新生児・乳児訪問 264件・8か月児健康相談 24回/年 (遊びや手づくりおもちゃを学ぶ・仲間づくり・計測等)対象児439人参加人数323人(73.6%) ・10か月児健康相談 24回/年対象児455人 参加人数436人(95.8%) ・乳幼児健康相談 実施回数31回(フォロー児・希望者の相談) ・発達相談 年間65日 延べ180人(実161人) ・随時相談(各地区担当の保健師が担当児のフォローを実施)(予防接種や育児について電話や窓口で相談実施)	行政関係機関との連携を充実する。	
		子育て中の市民				

施策の方向	具体的施策	施策対象者	担当課	平成24年度実施内容(数値、改善点、方向性)	平成25年度目標	H25機構改革による担当課
2、子育て・親支援体制の充実	⑤乳幼児検診の充実	市民 子育て中の市民	健康課	<ul style="list-style-type: none"> ・4～5か月児健診 97.9%・1歳8か月児健診 94.9% と健診受診率は高い。 ・3歳6か月児健診 95.7%・股関節検診 受診者430人 	<ul style="list-style-type: none"> ・前年と同様に健診未受診者に対しては健診の案内を未受診確認後2回まで送付する。 ・4月からは、どの健診も受付時間を2部制にし、待ち時間の短縮・集団指導を入れる等工夫する。 ・4～5か月児健診には、社会教育課と連携し、乳幼児期から内読を勧めるために空き時間を利用して読み聞かせを実施する。 ・1歳8か月児健診時にう蝕活動試験を導入し、早期からのむし歯予防に努める。 ・歯科衛生士を週3日であるが雇用し、県下でもむし歯率の高い本市の歯科に対する意識づけを行う。 	
	⑥産婦人科・小児科・救急医療の充実	市民 子育て中の市民	市民病院	<ul style="list-style-type: none"> ・産婦人科では、現在、常勤医師3名と応援医師により医療の充実を図っている。入院一日平均17.3人(年間延べ6,301人)、外来一日平均45.9人(年間延べ11,254人)となっており、地域の妊婦や女性に対し安心のできる医療の提供に努めている。 ・小児科では、現在、常勤医師2名と応援医師により医療の充実を図っている。入院一日平均3.2人(年間延べ1,176人)、外来一日平均51.0人(年間延べ12,483人)となっており、地域における子育て中の市民に対し安心のできる医療の提供に努めている。 ・救急医療について、救急車の受入件数は、ほぼ前年度並みの144.6件/月となっており、うち産婦人科は1.1人/月、小児科は5.2人/月となった。夜間も救急受入体制を取っている。 	<p>医師の確保については、和歌山県とも連携を図り、また橋本市市民病院独自の施策を打ち出し、引き続き確保に努める。HCU(ハイケアユニット)の施設を整備する。 ※HCU(ハイケアユニット)とは、高度で緊急を要する医療を行うための病室。</p>	
	⑦多世代の遊びと交流の場の確保	市民	住宅・公園課	<ul style="list-style-type: none"> ・都市公園(60)ちびっ子広場(59)やすらぎ広場(5)等の良好な維持管理につとめた。 ・遊具等の定期点検を行った。 ・園内バリアフリー化22%(4/18公園) 	園内のバリアフリー化工事 5公園良好な維持管理及び点検等を行う。	
			社会教育課	<ul style="list-style-type: none"> ・放課後子ども教室で地域の大人と交流しながらの子どもの居場所づくり。 ・学校支援地域本部事業で地域人材を学校で活用し、地域のつながりづくり。 ・児童館での親子の居場所づくり、手作りを通しての保護者のつながりづくり。 ・家庭教育支援チームヘステリアによるシニアカレッジへの協力。 	周知活動を通じてボランティア登録も同時に呼びかけひろげていく。	
			中央公民館	8地区公民館の子育てサークルのリーダー達が子育ての悩みの語り合いや情報交換、子育てサークルのリーダーとしてのスキルアップのための学習をする。<年間331人参加>	市民活動事業や子育て支援事業との連携を図り、地域の活性化につなげていく。	
			紀見地区公民館	乳幼児親子対象の事業として『子育て講座(全4回、125名)』児童生徒対象の事業である『こどもルーム(全8回、134名)』公民館や地域の講師の方々協力、子どもと大人の交流ができた。また、3世代間交流と題して、『アンサンブル・ピアノコンサート(22名)』地域の特性を生かした大事業である『親月会(100名)』『ふる里よいとこ探しナチュラルブレイク(850名)』を開催した。	年齢問わず大勢の参加があるナチュラルブレイクでは、お祭り化だけではなく、そもそもの原点の趣旨(ふる里、自然環境)を考え、そのための企画を具体化する。	
			紀見北地区公民館	子どもから高齢の方の交流の場として『夏まつり』を開催。今年で17回目を迎える『ふるさと展望』開催。籠を担いで、仮装をして紀見峠を目指す。楽器演奏、やっちゃん踊り、餅まき大会などがあり、多世代の約1200人が参加した。	継続実施する。	
恋野地区公民館	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもから高齢者まで参加、交流でき壮年期が中心となるキャンプファイアーを実施した。 ・盆踊り大会、総合文化祭等も地域が一体となって開催した。 	地域の特色を生かし、幅広く広報し事業の発展に向けて継続実施していく。				

施策の方向	具体的施策	施策対象者	担当課	平成24年度実施内容(数値、改善点、方向性)	平成25年度目標	H25機構改革による担当課
2、子育て・親支援体制の充実	⑦多世代の遊びと交流の場の確保	市民	学文路地区公民館	・子どもから高齢者まで参加できるように、盆踊り、文化祭、視察研修など実施した。(30周年記念事業のテーマ:多世代が参加できるように事業実施)	地域共育コミュニティとの関わりを推進する。指導的役割を担えるボランティアの発掘(運営委員も含む)と人材育成により、事業への参画を促す。新しいことを考え、事業の継続と拡幅により、新規の参画を計る。広報の充実。	
			隅田地区公民館	・多世代の遊びと交流の場として『盆踊り大会』を開催した。 ・三世代交流会(子ども園の園児と地域の高齢者との交流会)では、地域の住民が主体となって運営した。 ・『こんにちは☆えほん』の読み聞かせ等において、中学生や高校生のボランティアが多数参加し運営した。	地域と協力し、創意工夫をしながら継続して実施する。	
			橋本地区公民館	・子どもから高齢者まで参加できるように『たまちゃん電車見学バス研修(34名)』、『夏休み子どもサマースクール』では公民館や地域で活動をしている方々を講師とし、子どもと高齢者が自然に交流を持つことができた。 ・地域の高齢者の方が指導者となり『子ども将棋教室(全12回、78名)』を開催した。 ・子育て中の親子の交流の場として事業実施。年間53回、58組の親子の参加があった。子育て中のお母さん方が情報交換や、自ら企画、実施することにより、学びの場を作ることができた。	世代間交流事業、乳幼児親子学級間の交流の場を企画する。	
			西部地区公民館	地域住民の交流が深まる「ふれあって！せいぶ」開催。また運営団体は、保育園・小中学校等保護者会と教職員、子ども会、婦人団体、老人会、消防団、人権啓発推進委員会等多くの団体が構成されているため、各団体のつながりにもなっている。	継続実施する。	
			高野口地区公民館	子どもから高齢者まで参加する「盆踊り」「文化祭」「人権講演会」を実施した。また地域の交流の場ともなっている。	多世代交流の場はあるが、参加年齢に偏りがあるため、幅広く参加できるよう事業展開する。	
3、介護支援体制の充実	①介護保険制度の充実	市民	介護保険課	市民又は、各種団体より現在の介護保険制度についての説明依頼があれば、出前講座を実施し、制度の周知を図った。	広く市民に対し、アピールしていきたいが、今年度は現状どおり依頼があれば、介護保険制度出前講座を実施する。	
	②障がい者自立支援制度の充実	市民	福祉課	障がい児者のQOL(Quality of life)の向上のため、就労継続支援A型、生活介護施設、グループホームなどの施設建設等について協議をした。	・施設建設等運営状況を考慮に入れながら協議していく。 ・就労継続支援A型、生活介護施設、グループホームが新設される	
	③介護に対する意識改革の推進	市民	いきいき長寿課(地域包括支援センター)	介護予防事業として、高齢者グループの支援を行った。げんきらりー教室(筋力向上トレーニング自主運営教室、34ヶ所)、ふれあいサロン事業(35ヶ所)への継続的な関わりを行い、介護予防や介護についての相談窓口の啓発を行った。	ホームページ等を充実する。	
	④ノーマライゼーション「優しいまちづくり」の促進	市民	福祉課	いきいき長寿課(地域包括支援センター) ・窓口などで、バリアフリー等の対応依頼があれば、関係各課と連携して対応する。 ・本庁舎内の多目的トイレの使用(優先されるべき方が利用しやすいように)呼びかけをした。	関連情報を再チェックし、ホームページの充実をはかる。 ・弱者に対するサービス低下がないようよびかけを行う。 ・本庁への磁気ループ補聴システムを設置する。	